



## 収穫の秋 ふれあい学級

先日6日(火)の1時間目に、おひさま広場から歓声があがっていました。カメラを片手にそこに行ってみると、ふれあい学級の子供たちが芋掘りをしていました。芋が土の中から顔を出す度に、地面の上に整然と並べられ、子供たちも満面の笑顔になっていました。子供たちにインタビューしてみると、「大きなお芋がとれて嬉しいです。」「帯西ブルー』の心を感じました。わけは、お芋を育てて美味しく食べたいからです。」と答えてくれました。

さて、この芋ですが、6月に植えられ、収穫の時期を迎えました。実は、ふれあい学級では、先日の授業参観で、「おいもパーティーをしよう」という議題で話し合っています。芋を使って「わくわく楽しいふれあい学級」になるためには、どんな料理がふさわしいかという視点で意見を比べ合っていました。その結果、「サツマイモ蒸しパン」をみんなで力を合わせてつくるそうです。どんな美味しい蒸しパンになるのか、今から楽しみですね。



## ●ひこうきぐも✧ vol.13

前回の幸運のお陰で、大金?(ラスベガスでの勝利※『わくわく通信135号』参照)が手に入り、ロスに戻るとすぐにメキシコに行くことにしました。

車を南に走らせ、国境近くの駐車場で車を止めてバスに乗り換えました。メキシコの街に入ると、乾燥した風景が広がると同時に建物は赤や黄色の明るい色調で、そのコントラストが街並みにマッチしていました。市街地から一歩離れると、じりじりと焼ける砂の上にバラックの家がたくさん建ち並んでいます。アメリカと陸続きのメキシコですが、地図の上にかかれた国境という線を越えただけで、途端に経済状態が違ってくるのを肌で感じる事ができました。

メキシコからアメリカに戻るとき事件は起こりました。外国人専用の出国窓口を通り過ぎようとしたときです。いきなり「Wait!(待ちなさい)」の声がしたのです。

メキシコの出国審査場は、出国許可を待つメキシコ人によって、長蛇の列ができていました。ただし外国人は専用の窓口があり、ほぼ素通り状態で通過できるのです。そのとき私も他の外国人と一緒に通り抜けようとしていましたが、審査官に止められてしまったのです。その場でパスポートの提示を求められましたが、パスポートに不備があったので(アメリカ入国手続きの半券を付けてなかった)、その場で拘束されてしまったのです。取り調べ室には、私の他にメキシコ人風の二人の男性も一緒でした。何やらその二人は、「私はアメリカ人です。」と片言の英語で懸命に訴えていました。私は調書にサインをし、拇印を押してようやくアメリカ側へ出国することができましたが、二人の男性は、そのままメキシコ側に残りました。

外国人専用とは言っても、肌の色が“白”以外の人はチェックを受ける…これが現実なのかと思知らされました。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。



メキシコにて。旅行中の日系アメリカ人家族と共に